

「馬鹿になって世界を変えよう」

<チェンジ・メイカー育成プログラム>中間発表レポート



10月にキックオフした社会人のための越境学習「チェンジ・メイカー育成プログラム」(主催・立命館東京キャンパス、共催・ジャパンラーニング株式会社、協力・群馬県上野村/株式会社阪急交通社)第4期は、最終発表に向けての最後の山場となる中間発表を、12月1日に行いました。

この中間発表には、最終の提案に向けてストーリーを整理し客観的に進捗をチェックすると共に、最終発表の予行演習としての意味合いがあります。

これまでに確認した事実は何か、その中で最も重要な事実は何か、追求する 이슈(論点)は何か。フィールドワークなどを通じて収集した情報の整理を行うための指標となるテンプレートに沿いながら、「魅力あふれる村づくり(サステナブル・ツーリズム)」「自律した循環型の村づくり(サステナブル・ビジネス)」「住み続けたい村づくり(サステナブル・ライフスタイル)」の3つのテーマで企画を練る3つのチームが、それぞれ10分間でプレゼン。それを受けて、今回のプログラムのコーディネーターを務めてくださっている上野村の瀧澤延匡さん(上野村振興公社)、瀧上守さん(上野村役場)や統括コーディネーターの斎藤雅通先生(立命館大学経営学部)などから率直なフィードバックが行われました。



齋藤先生からは、各チームが部分最適にならず上野村全体を俯瞰した視点の提案となっているか、という指摘がされました。今回の3つのテーマは、令和3年（2021年）に策定した、2031年までを見据えた「上野村第6次総合計画」の重点プロジェクトとなっているものです。つまり、3つのテーマが相互に連携することで「地域・人がつながり、輝ける未来につなぐ」村が実現されます。本講座でも、この総合計画の意図を反映し、各チーム内のディスカッションに留まらずチームメンバーを入れ替えての混成セッションを行い、互いにアドバイスを行って相互が連携して提案の視野がより高くなる工夫がされています。



また、瀧澤さん、瀧上さんからは「それが村や村民のメリットになっているのか」そして「上野村から世界を変える」ためのオリジナリティがあるのか？という指摘がありました。そこには、提案に終わらず受講生にも村民の一員のように「変革の主体者」となって欲しいという受講者への期待が込められていました。

発表の後は、フィードバックを受けて各グループで振り返りながら本発表に向けての作戦会議。様々な視点からの「突っ込み」を受け、改めて客観的に提案をより良くするための真剣なディスカッションが行われました。

中間発表の後、瀧澤さんから受講生への「エール」とも言えるメッセージが贈られました。その末尾は、こんな素晴らしい言葉で締めくくられていました。

成果報告会まで残りわずかですが、「上野村から世界を変える」ためのオリジナル性があり、課題解決の本質をつくような事業構想をぜひお待ちしております。

人にばかにされ、あきれられる。

そんな事業構想だからこそ、未来の姿が秘められている気がしてなりません。

皆様のお力が上野村には必要です。共に上野村を舞台にして世界を変えて行きましょう。

それはアップルの創業者であるスティーブ・ジョブスが母校・スタンフォード大学の卒業式でスピーチをした時に残した、この有名な言葉と同様に受講生に勇気を与えるものでした。

「Stay hungry, stay foolish(ハングリーであれ、愚かであれ)」

「馬鹿になって世界を変える」提案に向けて、いよいよラストスパート。最終発表会は、12月16日に開催されます。どうか、ご期待ください！

2022年度 立命館東京キャンパス社会人リカレント講座
「チェンジ・メイカー育成プログラム（4期）」成果報告会



いよいよ、成果報告会

社会人の越境学習「チェンジメイカー育成プログラム（4期）」が進行中です。
今回の舞台は、人口約1000人の中山間地域「群馬県上野村」。
受講生からどんな提案が飛び出すか、成果報告会、どなたでもご参加いただけます。

[3つの発表テーマ]

- 01 魅力あふれる村づくり (サステナブル・ツーリズム)
- 02 自立した循環型の村づくり (サステナブル・ビジネス)
- 03 住み続けたい村づくり (サステナブル・ライフスタイル)

2022.12.16 FRI
14:00-16:00

ZOOM ウェビナー 配信	定員 50名
	参加費 無料